

日本映画放送株式会社 第70番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和元年8月20日（火）15時～16時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 10名 / 出席委員数 9名
出席委員（順不同、敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・
砂川 浩慶・田保橋 淳・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎
欠席委員（敬称略）：鳥居 美砂
放送事業者側出席者：代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 小川 英洋
編成制作部 三宅 歩
編成制作部 小林 良弘
番審担当 堤 靖芳
清水 明（記）

4. 議題

- (1) 審議事項 日本映画専門チャンネル「追悼 萩原健一」について
- (2) 報告事項 時代劇専門チャンネル「華麗なる宝塚歌劇の世界」について

5. 議題（1）

今年3月26日に亡くなった俳優・萩原健一を追悼し、日本映画専門チャンネルでは3月30日に緊急追悼編成としてドラマ「傷だらけの天使」（1～8話）を、翌31日には「君は海を見たか」（全11話）を放送した。また、ゴールデンウィークには「傷だらけの天使」全26話を一挙放送。5月からは4ヶ月連続特集「追悼 萩原健一」と題し、ドラマや映画を放送している。6月にはその足跡をたどるオリジナル特別番組『追悼 萩原健一』（出演：高橋恵子（女優）、倉本聰（脚本家）、木村大作（撮影監督））を放送し、「日曜邦画劇場」ゲスト出演時の映像も再放送した。更に時代劇専門チャンネルでも主演ドラマ「風の中のあいつ」（全26話）を5月から放送した。こうした番組編成に対して、多くの反響が寄せられた。

【審議ポイント】

多大な足跡を遺した俳優や監督が亡くなった際に追悼特集を緊急編成し、視聴者が観たい作品を放送してきた。今回の特集を例に、追悼特集の是非と意義について考えたい。

6. 議題（1）審議内容

- ・オリジナル番組は編集もよかったし、それぞれのコメントも楽しんだ。新しい番組をつくるのも大切だが、過去作をどう観せるかにも意義はある。一気に出演作を特集できるのは専門チャンネルならではの強みで、9月の樹木希林追悼特集にも大変期待している。
- ・オリジナル番組はよくまとまっていたが、時間が短くて『青春の蹉跎』などの映画に触れておらず、映画ファンとしては物足りない。特集編成は充実していた。
- ・萩原の足跡や往時の映像を観て、若者がテレビで破天荒な試みをしていた時代を知り、萩原を通じてテレビというメディアの青春期を観察できて面白かった。代表作の「傷だらけの天使」を全話編成できたのは素晴らしい。
- ・ミュージシャンとしての萩原も好きだった。ドラマとしては、「傷だらけの天使」もよいが、「前略おふくろ様」も見かけた。不良っぽい役だけでなく、行儀のよい芝居もできる俳優だった。追悼特集は複数チャンネルが連合して放送してもいい。
- ・萩原はサラリと台詞を言い、そのサラリを重ねてホロリと泣かせる。「傷だらけの天使」を見てそれが改めてよくわかった。大衆芸能にも萩原は大きな影響をもたらした。呼吸法を変え、リアルな演技をもたらした。一大革命と言っても過言ではない。特集を組んで作品を観ることは最高の弔意であり、今後も是非続けてほしい。
- ・萩原は若くして存在感があったが、今同い年で同じ存在感のある役者はいない。輝いていた時に光を当てた番組はポジティブでよかった。彼は時代を映した俳優でもあるので、当時の時代背景や資料映像を入れたら、番組をより楽しめたのではないだろうか。
- ・萩原は時代のアイコンであり、シラケ世代のヒーローだった。芸術総合誌『ユリイカ』も追悼特集を組んでいた。故人の業績を特集や番組で正當に位置づけるのは視聴者のためになる。番組では倉本聰に「前略おふくろ様」についても語ってほしかった。
- ・カリスマ性のあるスターが輝いていた時代を偲ぶ、という意味もあるので、萩原追悼企画でなくとも彼の出演作を放送してほしい。年末にまとめて放送してもいいだろう。賛否両論を検証する2時間ほどの番組を改めて企画しても面白いと思う。
- ・追悼番組をつくるなら功績を褒めるだけでなく、人間味あるエピソードを盛り込んで貰いたい。特集で放送した作品数の多さに「さすが日本映画専門チャンネル！」と唸った。

各委員からの発言に対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・CS放送は3ヶ月前に編成発表されているので、フレキシブルに追悼ができない。萩原が時代を象徴する存在であることを捉え切れていなかったとの指摘は耳が痛かった。次の機会に内容を深めた番組を製作したい。萩原が亡くなる1年前に取材した番組を再放送したが、その時に当チャンネルで「前略おふくろ様」を見ていたと仰っていただいた。
- ・大変魅力的な人物だった。存在そのものが時代を表していて、抵抗することに美学が存在するという感覚は今の人には伝わらないかもしれない。70年代はあらゆる意味で変化の時で、変わり目の時でないとういう人物は生まれれないのだと今感じる。

7. 議題（2）報告事項

時代劇専門チャンネル「華麗なる宝塚歌劇の世界」について

時代劇専門チャンネルでは7月から「華麗なる宝塚歌劇の世界」をスタートした。宝塚歌劇といえば「ベルサイユのばら」「風と共に去りぬ」など洋物のイメージが強いが、実は日本物の作品も多数上演されている。時代劇専門チャンネルでは、宝塚の「日本物」にスポットを当て、6ヶ月で25作品を毎週1作品ずつ放送する特集を組んだ。番組の前後には、宝塚ファンの中井美穂が見どころを紹介するナビゲート番組を用意し、タカラジェンヌOGをゲストに迎えてのインタビューも放送している。視聴者からの声も多数届いている。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2019年11月19日16時より開催。